F S 式 エ バ ー ク リ ー ナ *

坂 上 恒 次 郎 **

最近バキュームによりカード針布の底に常時綿を溜めぬようにする試が盛に研究されているが、我が社でも夙に下記の如き方針の下に理想的な方法を検討し、製作運転の結果極めて満足すべき成績を得た。

目 的

カードの並掃除の周期を出来るだけ長くし、同時にカードスライバの均整度を良くするにある。

計画に当つての主眼点

最初に大切な問題は、シリンダの場合如何なる場所で綿を吸上げるかということである。梳綿作用の大部分はシリンダとトップとの間で行われるので、その直前に浮上げるのが一番効果的である。従つてテーカーインの直ぐ上に装置を取付けることとした。この位置は次の点で更に重要性を加える。

テーカーインで捌き切れぬ綿或いは充分シリンダに纏まれぬ綿は当然吸出されるが、これはもう一度フィード

ローラ前に返す必要がある。このことからいづれも他の場所では非能率的である。

吸込んだ綿と空気との分離方法としては、適當数の適當径の小孔をもつた円筒（ケージ）を吸入系統中に置き常に回転させる。

吸入空気量は極めて僅かであるため、使用ファンは小型で動力も少く、カードの速い回転部からとれば充分である。

構 造

バックシートにシャッタ付の溝を切り、これに1個又は2個の円形吸込口を差込む。吸込口は筐体にねじで取付け、針布に対しゲージを取つた後ロックする。筐体上部には往復ねじが通り爪を介して往復動を伝える。親ねじの両端はバックコンセントリックバンドに取付いた腕に支えられる。

円筒形ケージは筐体に抱かれ、中心を貫く吸気管の枝管がケージの裏側に密着して口を開く。ケージの両側には歯車が固定され、親ねじのキー溝に嵌つた小歯車から回転を伝えられる。親ねじの一端には減速籠付プーリがあり、テーカーインに新たに設けたプーリで駆動される。

吸気管の端はフレームに取付いた吸塵袋を経てファンに連り、ファンの排出口からは清浄な空気が出る。

後 記

種々行われた実験の結果及び運転状況の詳細については後報に譲ることとする。（本機は特許申請中である）

* Type F S Ever Cleaner.

** T. Sakagami 富士紡績株式会社 取締役技術部長